

5-2 多摩市の施策

(3月28日更新)

多摩市では、SDGs（持続可能な開発目標）に対応づけた様々な施策目標を「第五次多摩市総合計画 第3期基本計画 2019-2028」とともに進められています。その試みの1つが（仮称）地域推進委員会構想であり、令和4（2022）年度より順次具現化に向けて歩み始めています。より高度に発展した地域づくりは、多摩市の地域魅力度を高めていくことにつながり、各エリアの特性や実情に見合ったしくみを形成していくことが、私たちの本共同研究の趣旨にもなっています。

ここで、地域魅力度は、一定の安全・安心が担保され、生きがいを持って、お互いを尊重し、より健康に快適に暮らしていくことのできる地域であるほどそのレベルが高いと捉えるものと考えます¹。

例えば、一定の安全・安心は、お互いが知り合いで挨拶が交わせる雰囲気をはじめ、災害発生時には自然と声をかけあえるような関係があり、生きがいには地域内外で仕事や余暇

活動がしたいと思った時に気軽にアクセスできる環境、健康が維持できるよう自然を保全し遊歩道で散歩やジョギングが楽しめたり、公園や緑地が荒廃せず常に手入れがなされているような状況を示します。

その一方で、自然の保全や、施設・設備の運営・維持の背景には、関係者の絶え間ない管理で成り立っているものも数多く存在します。地域の担い手には、そういった役割の分担も自ずと議論の対象となります。誰かが常に地域のために労力を惜しみなく重い負担を背負っていく状況が続いては、次代の担い手となり得る人たちが率先して手を挙げにくくなることが生じると考えられます。そのような不安にならないためには、こういった活動がどれだけの人数で、どのように分担されているのかといった可視化ができるシステムづくりが重要な役割を果たすこととなります。その組織が、（仮称）地域委員会という位置づけの1つと本共同研究では捉えています。

¹ Nakamura D. *Attractiveness of regions and sustainable regional economic system: As a measure of social welfare function*, Heidelberg: Springer, (forthcoming)